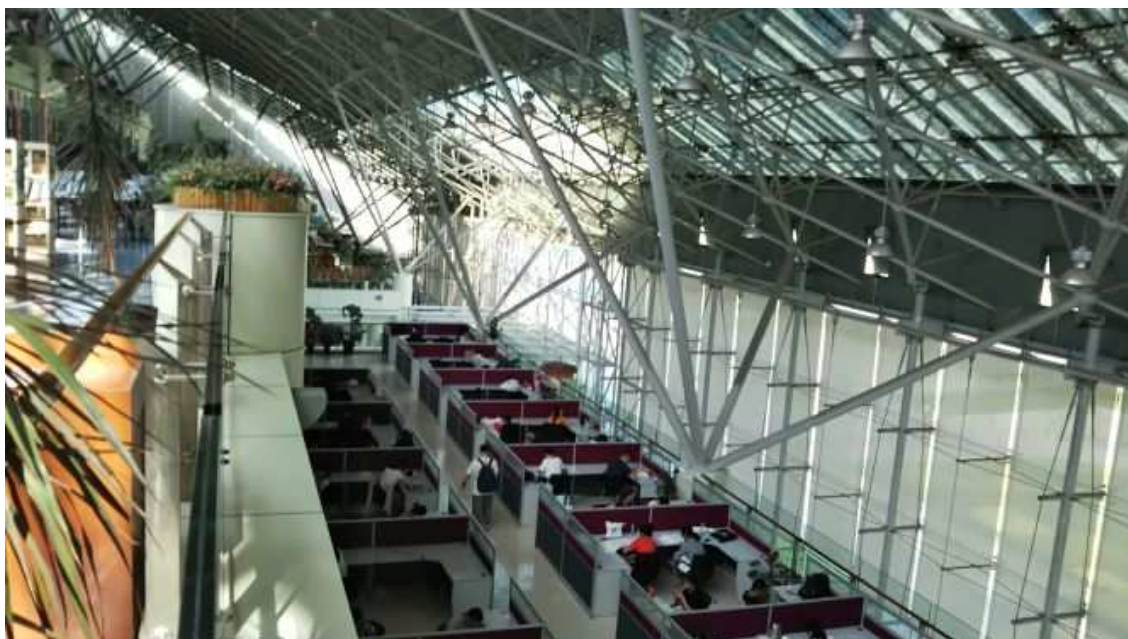


## 開発区(カイファーチュー)へ

6月15日 日曜 晴れ 暑い

そろそろ帰国も近づいて来たので、大連市内でも行くべきところに行こうという事で、市北部の開発区へ3号線の香炉礁駅から向かう。切符を買う時に初めて中国語を発して買うことができた。「カイファーチュー、イーピャオ！」

開発区とは、正式には「大連経済技術開発区」と呼び、1980年代に中国が改革開放へと向かおうとした時、最初に指定された開発区だ。積極的な外資導入を図り、数多くの日系企業が進出した。おかげで、地区人口30万の中、日系住民が2000人も居住しているそうだ。しかし、この時の日帰り旅行では、一人の日本人とも出会わなかった。都心から25kmも離れているので、大連とは別の隣の都会かのように思える規模だ。大連以上に人工的な趣で、中央を東西に金馬路とよぶ大通りが貫いているが、その南北にも街路が直行し、建物の多くは20階前後の高層ビルで、新しくはないが整然と並んでいるのが印象的だ。東側を遠望すると、低層だが規模が大きく目立つ建物が見えた。そこまで歩いてみると、広々とした芝の前庭をもつ工人劇場と図書館の複合施設が鎮座していた。劇場の開催案内のポスターに目を通すと、来月にはハーバード大学の男声合唱「クロコダイルズ」がやって来るそう。図書館の方は吹き抜けを多用したモダンな建物で、そこに多くの市民が詰めかけていた。それにしても、日差しが強く暑い。おかげで駅へと戻る時は、なるべく建物の陰を選びながら歩を進めた。



開発区図書館のモダンなインテリア



### 開発区の駅前に広がる「五彩城広場」

帰りに月末に利用する新幹線の駅「大連北駅」の下見を兼ねて、3号線の後盤駅で途中下車。徒歩で大連北駅へと向かう。しかしこれが難儀だった。途中車道に沿って歩く所があった。ところが、走って来る車のスピードを見ると、どうやら高速道路のランプのような道を歩いていたようだ。しかもカーブで一度ならず二度、そこを横断することになった。へたをすると車にひかれる恐れもあった。慎重にだが、走って渡った。さらに道に迷いながら、誰も通らない農道を進んだ。辺りが林に覆われているので先の見通しもわからなかった。珍しく、「孤独」という字が頭に浮かんだ。それからしばらくして辺りが開け、道路に舗装面が現れた時は、ほっとした。辺りの人に道を尋ねるが、自分の拙い中国語ではなかなか理解してもらえない。彼らの案内を十分に理解できぬまま先へ進むと、やはりその方向で良いのか気になり後ろを振り返ると、先ほど案内してくれた男性が心配そうにこちらを眺めていた。そっちだそっちだ！と合図を送って来た。さらに進むと、漸く新幹線の高架が見えて来た。30分近くもかかり大変な思いで駅につくと、地下鉄の駅はあれかと私に聞く人がいる。私もそれだよと、指さすことができた。少しはこの地に慣れて来たのか？何ともちぐはぐな体験だった。